

中区 区域まちづくり事業 効果検証シート

事業名称				実施主体			
防災に関する情報発信事業				中保健センター			
事業目的		事業内容		活動指標	R4	R5	R6
中区地域計画における「地域防災力の向上」をめざし、次のことに取り組む。 ○災害時、子どものいのちを守るために、子育て世代が備えるべき防災物品、知っておいてほしい知識、家族で取り組んでほしい内容、感染症の予防などを市民に周知し、防災への意識を高める。		○4か月児健診にて、防災ブックを配付、防災について啓発する。 ○乳幼児健診会場に実際の防災グッズを揃え、展示を行う。 ○子育てサークル・サロン、地域のイベント、保健センター事業等において、防災ブックの配布・配架、パネル、グッズの展示を行う。		啓発回数	4か月児健診（個別配付）、区民フェスタ（個別配付）、すべての健診会場でパネルとグッズ展示を実施、妊娠届出面接時（個別配付）防災講座1回実施。	4か月児健診（個別配付）、区民フェスタ（個別配付）、すべての健診会場でパネルとグッズ展示を実施、妊娠届出面接時（個別配付）学校で啓発 小学校4校 高校1校	4か月児健診（個別配付）、すべての健診会場でパネルとグッズ展示を実施、子育てサークル、子育て講座、子育てフォーラム、関係者交流会や区民フェスタで防災ブックを用いて周知妊娠届出面接時（個別配付）
				防災ブックおよびクリアファイル配布数	防災ブック1128冊 クリアファイル735枚	防災ブック1056冊 クリアファイル736枚	防災ブック1076冊 クリアファイル710枚
①妥当性		②協働の視点		③インパクト		④効率性	
○	防災情報などを記載した防災ブックを配付することにより、区民の日頃からの防災意識の向上、ひいては発災時の被害の減少につなげることができる。地域に情報発信を行うことで、その情報を受けた区民からさらに情報が伝達され、より多くの区民に防災情報を伝えることができる。	○	区内の子育てサークルや、子育て関係機関等と連携することで、防災に取り組む必要性が認識されている。また、子育て関係機関での防災意識の向上にもつながっている。	○	4か月児健診時にパンフレットを配付。乳幼児健診会場に防災パネル・グッズを展示し啓発。健診待ち時間に防災リュックを持ってみる等体験してもらった。受診率の高い乳幼児健診の場を利用して、体験等の啓発を行うことで、子育て世代の防災意識の向上が期待できる。	○	妊娠届出面接や乳幼児健診など全妊婦・全産婦に対面できる機会を活用し、防災ブックやクリアファイルを配付した。また、マタニティサロンの事業実施時など既存の事業を活用した啓発を実施できた。
⑤自立発展性		総合評価					
△	子育て世代に対して正確な情報を伝え、防災意識を高めることを目的としており、行政の関与が必要であるため自立発展性は高くないが、事業を通して区民が防災準備を行い、主体的な自助強化の取組になっている。	◎	子育て世帯が集まる場所を利用して、防災グッズ展示やパネル展示等に力を入れた。子育てフォーラムでは講座内容も防災だったため、防災ブックを渡し広く啓発することができた。また、子育て支援関係者交流会においても啓発を行い、子育て世帯を支援する関係機関より防災について関心をもって多数の質問があったことから、防災意識の向上に寄与したと考えられる。マタニティサロンでは産前産後の準備の一つとして防災を伝えており、講座終了後にアンケートにより参加者の多くの行動変容(防災グッズの準備)を確認できた。上記のとおり、災害時においてこどもの命を守るために効果の高い事業であるため、継続実施が必要。				
今後の方向性（課題、改善提案等）							
拡充 継続 見直し 廃止	子育て世代が備えるべき防災物品、家族で取り組んでほしい内容、感染症の予防などを、新たな妊産婦に対して啓発し、防災への意識を高めるため、本事業は継続する。						